

# 瀋陽だより

2015年6月号

報告者：東北育才学校

高井 奈央子

## 東北育才学校国際部

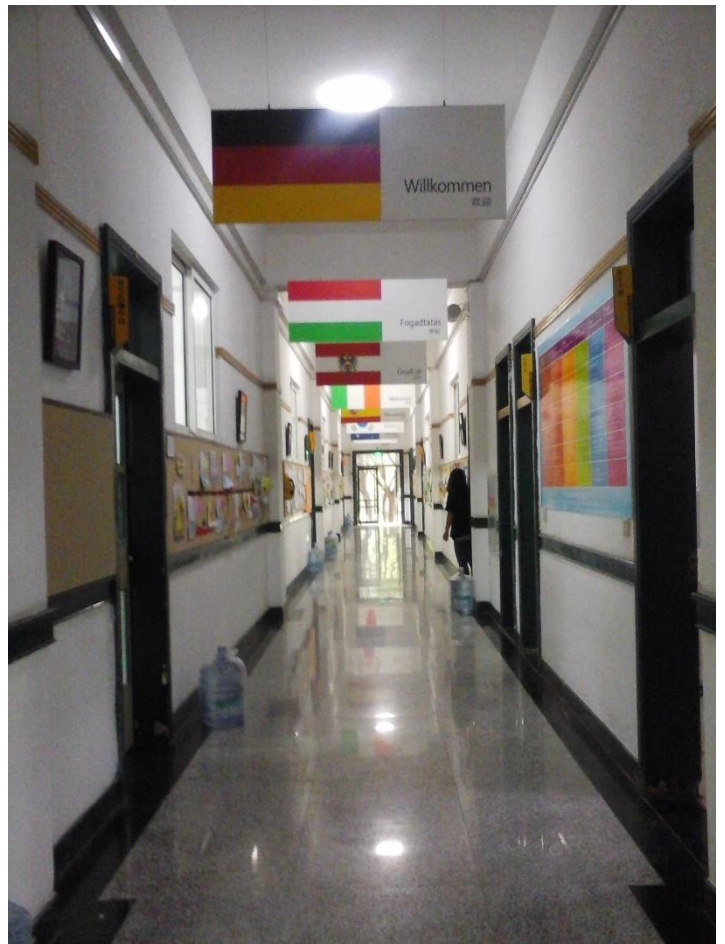
5月中旬、同僚の一人が本帰国することになりました。仕事や生活の上で大変お世話になった方ですが、仕事の都合ということで、途中でお別れすることになりました。代理の日本語教員は9月に来ることになっています。それまでは、残された私ともう一人の日本語教員で仕事を分担することになりました。

新しく受け持つことになったのは、東北育才学校国際部の授業です。国際部には、保護者が仕事などの関係で中国にきている日本人の子どもたちが在籍しています。小学校3年生～6年生、計5名のクラスの日本語（日本風に言うと「国語」）を担当することになりました。日本では高校で教員をしているので、小学生の目線に合わせて話をするのはとても新鮮です。

「好きな食べ物は？」と聞くと、「たこやき」「お煎餅」「寿司」といった答えが返ってきました。なかなか中国では食べられなかったり、見つけても日本の物とは違うものが多かったです。日本の食べ物が恋しいのでしよう。

小学校3年生の女の子は、今度HSK（漢語水平考試）の3級を受けると言っていました。子どもたちの外国語への適応能力には驚かされます。

なお、国際部は東北育才学校とは別予算で運営されていて、豊富な資金を持っているそうです。コピー機の横にラミネート加工の機械があるのをみても納得できます。



## 中国ライフーお宅訪問



今回、いつもお世話になっている中国人の先生のお宅と一緒に餃子づくりをする機会に恵まれました。先生のお住まいは高層マンションの25階。マンションの敷地に入るとき(ガードマン付き)、マンション内に入るとき(受付係付き)、マンションのエレベーターを使うとき、全て専用のカードキーが必要です。私は田舎育ちで、日本の高層マンションに住んだこともなく、あまり犯罪等を気にしない環境になれているため、部屋に到達するまでのセキュリティ自体が珍しかったです。

上の写真は先生の部屋からの展望です。運河に近いマンションほど高価で、川沿いにみえる低い建物は富裕層の別荘(1平方メートル当たり5万元だとか)だということでした。夕方にはご主人と一緒に川辺を散歩されるそうです。とてもいい場所でした。写真には写っていませんが、建設中のマンションもたくさんあります。というのも、最近、中国は一人っ子政策を止め、夫婦ともに一人っ子の場合、2人目の子どもも認めるという方向に舵を切ったので、マンションはまだ需要があると考える人が多いとのこと。

さて餃子と言えば冷凍餃子、幼少期に母と一緒に餃子を作ったことがあるような、ないような、という私が目にしたのは右の写真です。「もしかして、皮から作る？やったことない。」という内心の動揺を隠しながら目の前の白い塊をつついてみると、「今日は朝から準備してこれを作りました。生地を寝かせてから、時間がたっているから、ちょうどいいですよ」と先生が教えてくれました。

具は豚肉とねぎ、それからセロリです。その日の朝市で、珍しく「野生のセロリ」を手に入れたとのことで、確かに普通の物よりすっきりした香りがしました。栽培ものではない、天然のセロリということなのでしょう。



あとは、先生とご主人、ご子息と私の四人でひたすら皮を作り、具を包みました。中国では男性が家事をすることは当たり前のようで、餃子を包むのが一番上手なのはご主人でした。尤も、最近中国では、こんな形で時間をかけて餃子を作ることは少なくなったそうです。たいていの子どもは、休日は塾に通うのに忙しいので、家族そろって料理をしたり、食事をしたりすることができないのです。でも先生のご子息（東北育才学校中学 3 年生）は塾に行っていない。それでも、名門校に入ることができただけあって、食後の休憩時間を自分で決め、自分で勉強部屋に入っていました。

先生の実家から送られた珍しいキノコや、ご主人お手製の牛肉のロースト、小米（粟）のお粥などをごちそうになり、おなかがいっぱいになりました。どれもとてもおいしかったです。最後はご主人がスイカのジュースを作ってくださいました。そのジュースを飲みながら、先生と話している間に、ご主人が台所の片づけをすべて終えてしまわれました。私も手伝おうとしたのですが、「いいんです、いつものことで、慣れていきますから」という返事でした。

「料理も片付けもされるなんて、素敵なお主人さんですね」と言うと、「はい、実は私はほとんど料理をしません。夏休みは、私の実家から父が来て、代わりに料理をしてくれますから」ということでした。日本と中国では、家事分担に関する考え方や仕方がずいぶん違う、と思いました。

先生は現在 4 つの不動産を所有して、家賃収入を得ているようで、もし子どもが留学することになったら、そのうちの 1 つを売りに出す予定だということをお話してくださいました。お金をそのまま銀行に置いておくことはあまりしないようで、不動産などに投資して増やすほうが賢いという話でした。確かにそれはそうかもしれませんが、「貯金はするけど投資はちょっと……。勇気もお金もないから遠慮しておこう」という私には遠い世界のように思えたのでした。



上の写真は、その日作った餃子です。余った分は冷凍して、お土産として持ち帰らせていただきました。

当分食事の心配はしなくてよさそうです。